

播磨高原東小学校及び播磨高原東中学校の在り方検討会について

検討会設置の経緯と協議内容

別添 2

- ・ 児童生徒の減少や近隣地域での環境変化等により、小学校PTAと中学校保護者が、「小学校・中学校の今後についての意識調査」を実施され、その報告会において、学校の今後について様々な意見が寄せられた。
 - ・ 令和6年度に本検討会を設置し、組合立学校の在り方について協議を開始した。
 - ・ 委員構成：小中学校の児童生徒の保護者、未就学児保護者、自治会長、地区住民、市町教育委員会事務局
- | | | | |
|-----|------|-----------|---------------------------------|
| 第1回 | 令和6年 | 8月20日(火) | 学校の現状、児童生徒数の今後の推移、公立学校適正規模適正配置等 |
| 第2回 | 令和6年 | 10月18日(金) | 小規模校存続の事例、アンケート調査の実施 |
| 第3回 | 令和7年 | 2月21日(金) | アンケート調査の結果 |

アンケート調査

校区住民の意見を聴取することを目的に、アンケート調査を実施した。

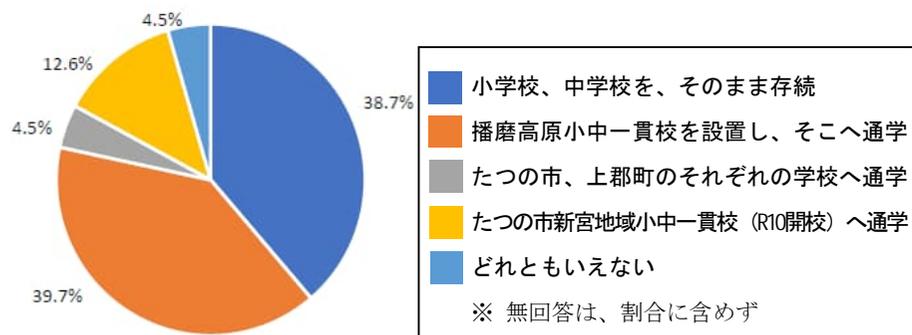
調査実施日 令和6年11月10日～12月20日

調査対象者 校区全世帯及び区域外就学家庭

調査回答数 112件(配布数361件) 31.0%(回収率)

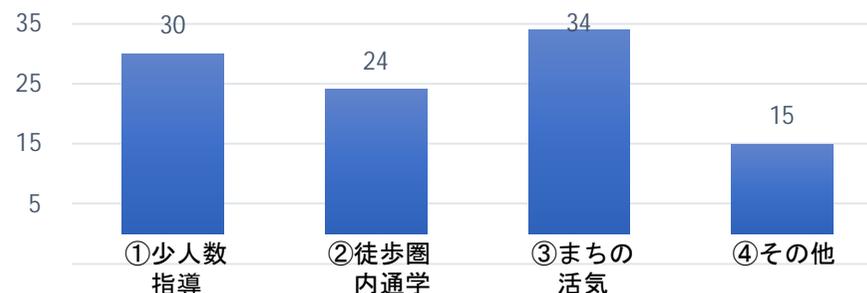
質問3 播磨高原東小学校、播磨高原東中学校の今後の在り方について、
どのようにお考えかお答えください。(1つだけ○印)

①そのまま存続	②高原一貫校設置	③たつの・上郡それぞれへ	④新宮一貫校へ	⑤どれもいえない	無回答	計
43	44	5	14	5	1	112



質問4 『現在の小学校、中学校をそのまま存続』とお選びになった理由をお答えください。(複数回答可)

理由	回答数
① 少人数を生かした、きめ細かな指導が受けられる	30
② 徒歩圏内で通学ができる	24
③ 学校が無くなると、まちの活気が失われる	34
④ その他	15



播磨高原東小学校及び播磨高原東中学校の在り方検討会について

自由記載での意見

- ・今後のS P r i n g - 8 - Ⅱへの改築に伴う発展、第2工区第3工区の発展の可能性に期待しています。定住者を光都に増やすには小・中学校は必須。今の小・中学校の位置関係から考えると敷地を1つに統合すれば、小中一貫校にも移行可能と思われます。
- ・学校が無くなると、子育て世帯の光都への移住は選択肢にはなり得ません。光都が限界集落とならない為にも学校は存続させて下さい。このすばらしい町を、学校の未来を光り輝くように願っています。また、息子はこの町へ戻りたいと言っています。しかし、学校が無ければ戻ることはいけません。私言になりますが、何卒学校を存続させてください。一貫校となっても存続すればよいと思っています。
- ・テクノを発展させるためには、人口を増やすことが最も優先すべき課題だと思います。

※アンケート結果等の詳細については、播磨高原広域事務組合ホームページに掲載しています。

児童生徒数の推移(参考)

○播磨高原東小学校

- ・平成7年4月1日開校
- ・所在地 たつの市新宮町光都2丁目6番1号
- ・児童数の推移

(単位：人)

年 度	H7	H10	H15	H20	H25	H30	R5	R6
児童数 (各5月1日)	26	67	95	110	104	72	52	52

○播磨高原東中学校

- ・平成9年4月1日開校
- ・所在地 たつの市新宮町光都2丁目4番1号
- ・生徒数の推移

(単位：人)

年 度	H9	H10	H15	H20	H25	H30	R5	R6
生徒数 (各5月1日)	15	28	49	50	57	55	36	24